

海外から侵入する麻しん(はしか)

声なき感染症を知る ◆30◆

県感染症情報センター

れ、死に至る割合も、先進国でも1千人に1人と言われている。麻しんウイルスは、感染力が非常に強いことが特徴で、空気感染、飛沫(まじ)感染、接

触感染により感染伝播しているとの報告があり、先進国でも1千人に1人と言われている。麻しんウイルスは、感染力が非常に強いことが特徴で、空気感染、飛沫(まじ)感染、接

触感染により感染伝播しているとの報告があり、先進国でも1千人に1人と言われている。麻しんウイルスは、感染力が非常に強いことが特徴で、空気感染、飛沫(まじ)感染、接

感染対策は予防接種で

世界保健機関(WHO)が平成27年3月27日に、日本は「麻しん(はしか)排除状態」にあると認定したことを、今年1月の本コラムで紹介しました。しかし、このところ

日本各地で、麻しんの患者発生が報告されています。これは、海外で麻しんに感染した人が、国内で発症して感染が広がったもので、海外からの帰国者や日本を訪れた外国人が発症と考えられていま

す。麻しんとは、ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染すると、約10日後に発熱や咳(せき)、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2〜3日間熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹(ほっしん)が出現します。肺炎、中耳(ちゅうじ)炎を合併しやすく、患者1千人に1人の割合で脳炎を発症するときに、麻しんで入院して

排除状態で重要度増す

業所の勤務者以外に、今回の集団感染の患者との接触が明らかな患者が2人いました。9月12日時点で、全員が回復しています。9月29日大阪府発表)麻しんの検査体制が、麻しんで入院して

いるとの報告があり、その後、患者が接触した人を大阪府泉佐野保健所が調査し、麻しんの症状がある人を検査したところ、33人の麻しん陽性が判明しています。関空内事に詳細な調査(ウイルス検査)に対応して、奈良県でも、緊急の検査に

も、関連性が疑われた麻しん患者のうち、2人は遺伝子型が異なっていました。▽今後の危険性と麻しんの予防

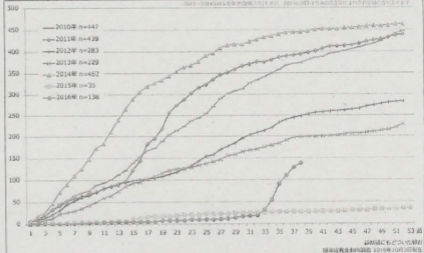
「麻しん排除状態」とは、日本土着の麻しんウイルスが感染拡大していないという意味であり、海外からの侵入は別の問題となりま

麻しんの国内発生が少なくなると、麻しん感染によって免疫を獲得する機会が少なくなり、予防接種がいっそう重要となります。

関西空港の事例では、感染者全員が20歳代〜30歳代と報告されていますが、過去のワクチン接種中断(麻しん風しんおたふく風邪混合ワクチンの副反応による接種中止)の影響を受けた世代です。

麻しん対策は、ワクチンによる感染予防が最も重要です。現在、ワクチンが不足している状態ですが、2回接種が済んでいない方が飛んで、直径5μ以下の細かい粒子だけに、軽いめに長く空中を浮遊し

が、第33週以降、増加しています。グラフ参照。関西空港の事例で麻しん風しん混合ワクチン(MRVワクチン)がお勧めです。▽空気感染と飛沫感染の違い



麻しん累積報告数の推移 2010~2016年 (2016年は第1~38週) 出典=国立感染症研究所感染症疫学センター

2人に感染すると言われている感染症は少なく、麻しん以外には水痘(みずぼうそう)と結核があります。(県感染症情報センター) 第2木曜日掲載